

施策	(1) どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします
平成30年度実施状況	
<p>【市民センター等を活用した図書館サービス窓口の適正配置】 (重)</p> <p>○中田市民センター内に、予約した本の受け取りや返却ができる新しい窓口として「中田サービススポット」を開設した。(新)</p> <p>▷平成30年度開設日数 54日 利用者数(延べ)1,146人</p> <p>*開設前に、中田サービススポットの利用促進と地域住民の読書意識調査のため、中田市民センター主催の中田まつりにPRブースを出展し、おはなし会を行うとともに、利用者アンケートを実施した。(市民、太白)</p> <p>○市民センターからの要請を受けて、図書ボランティア養成講座等に講師を派遣し、地域での読書活動の活性化に努めた。</p> <p>*荒町市民センター(市民)、鶴ヶ谷市民センター(市民)、榴ヶ岡市民センター(榴岡)、若林区中央市民センター(若林)、南中山市民センター(泉)</p> <p>【分室、移動図書館サービスの再編等】</p> <p>○利用者からの移動図書館巡回要望の意見や利用状況を考慮し、巡回コース及び開設時間の調整・変更を行った。</p> <p>▷市内76ヶ所</p>	

施策	(2) 誰もが使いやすい図書館サービスをめざします
平成30年度実施状況	
<p>【高齢者サービスの充実】</p> <p>○高齢者をはじめとする通常の本の文字が読みづらい方向けに大活字本の収集を行うとともに、集中選書会議で調整のうえ新刊を中心とした大活字本も購入し、全館で資料の充実を図った。</p> <p>▷平成30年度末大活字本受入数 273冊(平成29年度177冊)</p> <p>▷平成30年度末大活字本蔵書数 8,064冊(平成29年度末8,067冊)</p> <p>*高齢者にも関心が高い分野(皇室・認知症等)をテーマとした資料展示やシニア向けの資料展示(広瀬、宮城野、太白、泉)、「充実のセカンドライフコーナー」(市民)、「生き生き家庭生活応援コーナー・シニア向けおすすめ本」(若林)、「医療・介護情報コーナー」(太白)、「ユニバーサルコーナー」(泉)を継続的に設置し、随時新刊本を追加してコーナーの充実を図り、高齢者に向けた資料提供に努めた。</p> <p>*絵本を楽しむシニア男子会による読み聞かせ「大人が楽しむおはなし会」を開催した。(市民、泉)</p> <p>*高齢者のニーズに対応し、映像資料を簡単にジャンル分けした目録をカウンターに備え付けた。(榴岡)</p>	

【障害のある人へのサービスの充実】

- 心身の障害等により来館が困難な利用者に対し、図書館資料の郵送貸出を行った。
 - ▷平成 30 年度郵送貸出延利用者数 4,189 人(平成 29 年度 3,621 人)
 - ▷平成 30 年度郵送貸出数 9,712 冊・点(平成 29 年度 8,618 冊・点)
- 視覚障害のある人へ、朗読ボランティアによる対面朗読サービスを実施した。
 - ▷平成 30 年度対面朗読件数 165 回(平成 29 年度 135 回) (メディアテーク分を除く)
- 全館に拡大読書器、筆談ボード等を設置するなど、障害者へ配慮した。
 - *ボランティア団体「拡大写本の会」による拡大写本制作の支援を引き続き行い、仕上がった拡大写本を受け入れし、利用に供した(拡大写本 2 タイトル 7 分冊点完成)。(宮城野)
 - *手話のできる職員が「手話」バッジを着用するようにした。(宮城野)
 - *対面朗読ボランティアスキルアップ講座を開催した。(太白)
- 宮城野図書館が日本点字図書館(サビエ図書館)に施設登録し、利用者へのデージー(DAISY)資料の貸出を継続して行うとともに、館内へのポスター掲示により広報した。
 - *視覚障害者へのデージー資料(録音図書)を作成した(担当:宮城野図書館)。
 - ▷平成 30 年度 デージー資料 360 点 累計 1,195 点(平成 29 年度 デージー資料 334 点 累計 835 点)
- 障害者サービスに配慮した行事を開催したほか、図書館ホームページ上でも障害者サービスの広報に努めた。
 - *障害のある方の就労実習の受け入れを行った。(市民、宮城野)
 - *「見えない・見えにくい人への接し方」をテーマに、視覚を制約された状態での歩行体験を交えた講座を開催した。(宮城野)
 - *成人向け講座「教えて！アニマル仙台～ペットとの上手なつきあい方～」を実施する際、手話通訳者を配置した。(泉)

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- 選定会議、調整会議等で調整のうえ、外国語資料(一般洋書)の充実を図った。
 - ▷平成 30 年度外国語資料受入数 115 冊(平成 29 年度 64 冊)
 - ▷平成 30 年度末外国語資料蔵書数 4,698 冊(平成 29 年度 4,778 冊)
- 外国人向け利用案内(英語・中国語・韓国語)を継続して配布するとともに、図書館ホームページでの情報提供を行った。

施策 (1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います

平成30年度実施状況

【計画的な資料の収集・保存・活用／分担収集の推進と収蔵スペースの確保】

○仙台市図書館資料収集方針に基づき、集中選書会議の中で、専門書や高額資料の購入について検討し、各館の分担収集分野に応じた配置を行った。

市民	郷土資料、東日本大震災関連資料、哲学・歴史・社会科学・ビジネス支援・建築・美術・言語関係資料
宮城野	文学関係資料
若林	農業・園芸関係資料
太白	健康・医療関係資料
泉	児童書研究資料、自然科学・技術工学・ビジネス支援・福祉関係資料

○書庫内の資料の計画的な除籍により資料収蔵スペースを確保し、魅力的な書架の提供に努めた。

○除籍資料を有効活用するための市内各団体向け譲渡会を継続して開催した。

▷平成30年度(児童書)小学校、保育所等 29ヶ所 2,191冊 (平成29年度(児童書)小学校、保育所等 38ヶ所 3,185冊)
 平成30年度(一般書)市民センター等 8ヶ所 771冊 (平成29年度(一般書)市民センター等 8ヶ所 1,056冊)

施策 (2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます

平成30年度実施状況

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- 行事開催の案内等を市政だよりや「ぱど」等のフリーペーパーに掲載するほか、公共施設や商業施設にも配布・掲示し、幅広い層への周知を図った。
- 多様な機関や市民団体との連携、行事・事業への参加、ラジオ放送等により、図書館サービスについての情報を発信した。
- 図書館ホームページでのイベントのお知らせやメール配信により、周知を図った。
 - * 「仙台市職員のための新着図書案内」及び「仕事に役立つ！本をピックアップ」リストを市役所職員用掲示板で周知した。(市民、宮城野)
 - * JR や地下鉄の駅に、図書館の新刊案内やイベントポスター等を掲示し、広報に努めた。(広瀬、宮城野、若林、太白)

【文字・活字文化振興のための市民活動の支援、市民協働による図書館づくり】

- ボランティアや市民の協力を得て、各館で多様な取り組みを行った。
- 対面朗読ボランティアスキルアップ講座等、図書館で活動するボランティアを対象とした研修を実施した。
- 読み聞かせボランティア養成講座を修了した参加者に、子どもと本をつなぐ活動をしているボランティアの活動情報を提供するとともに、活動の場を提供した。
- 本の修理や書架整理等を行うボランティアを募集し、市民参加を促進した。
 - * ボランティアによるおはなし会を実施した。(各館)
 - * 本の修理や返却された本を書架に戻す作業を、ボランティアの協力を得て行った。(市民、宮城野、若林、太白、泉)
 - * 「広瀬図書館まつり」で、ボランティア団体との協働による「おはなし会リレー」を実施した。また、継続して実施している読書会事業の参加者が選書した資料を「読書会の本棚」として展示した。(広瀬)
 - * 市民センター等に「図書ボランティアスキルアップ研修」の講師を派遣した。(榴岡)(再掲)

施策	(3) 図書館資源を適正に配分し、有効に活用します
平成30年度実施状況	
【システムやサービスのあり方の見直し】	
○雑誌スポンサー制度を導入した。(広瀬、宮城野、榴岡、若林、太白、泉) 新規 ▷平成30年度ステッカー 400枚、参加企業 4社	
○資料配送サービスについて、実態に合った配送時間に調整した。	
【資料管理の効果的なあり方の検討】 (重)	
○市民図書館と太白図書館に盗難防止装置を設置した。 新規	
【指定管理館のあり方】	
○指定管理者制度導入館に対して指導・監査を実施するとともに、管理運営に係るモニタリング・評価を実施し、ホームページ上で公表した。	

施策	(4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います
平成30年度実施状況	
【継続した事業評価の実施／市民による評価や意見の活用】	
○仙台市図書館振興計画に基づき実施した事業が、地域や市民にどのような効果をもたらしたのか点検・自己評価を行い、第三者による評価として仙台市図書館協議会から意見を受けて報告書としてまとめ、市民に公表した。	
○市民の意見や要望を把握し、より良いサービスが提供できる図書館経営を行うため、利用者向けアンケート調査や利用者懇談会を実施し、その結果をホームページで市民に公表した。	
○全館に意見箱を常設し、利用者の意見を聞く機会を設けるとともに、意見と回答の掲示を行った。	
○指定管理者制度導入館に対して管理運営に係るモニタリング・評価を実施し、ホームページ上で公表した。(再掲)	
○寄せられた意見、要望に応じて可能な改善を行った。	
*本・雑誌の貸出点数を10冊に増やし、サービスの向上を図った。(全館)(再掲)	
*タッチパネル OPAC に付属するキーボードの位置を高くするための台を設置(広瀬)	
*拡大写本のリスト作成、館内視聴ブースの座席に荷物かごを配置(宮城野)	
*館内での飲食ルールについて閲覧席に掲示(榴岡)	
*定例おはなし会の実施時間を15時から15時半に変更。(若林)	
*書架サイン、利用マナーに関する掲示の刷新(若林)	
*館内巡回の強化や勧誘行為禁止の呼びかけ、閲覧席の利用マナーに関する掲示、椅子等の配置換えによる利用の改善、貸出カウンター近くに資料の鞆詰め用の机を新たに配置(太白)	
*利用者が館内で利用できるカゴやカートの設置、貸出カウンター前に手荷物置き台の設置、窓口誘導用のベルトパーテーションの設置、配布用図書館カレンダーの用紙サイズ・文字サイズを大きくした。(泉)	

施策 (5) 図書館職員の資質の向上に努めます

平成30年度実施状況

【出版文化の状況や利用者の動向を踏まえて選書を行える職員の養成／専門性と経営能力を備えた職員の養成】

○専門機関等から講師を招き、各種研修を実施した。

(実施テーマ)

- * 職員のスキルアップについて
- * 図書館向けファシリテーション技術について
- * レファレンス・サービスについて

○国立国会図書館、日本図書館協会、北日本図書館連盟、国文学研究資料館等の専門機関等の実施する研修に参加した。

(各館の参加状況)

- * 北日本図書館連盟の研究協議会(市民)
- * 図書館地区別(北日本)研修(市民、広瀬、太白)
- * 国立国会図書館の研修会(市民、太白)
- * 日本古典籍講習会(市民)
- * 文部科学省の新任図書館長研修(広瀬)
- * 国立大学図書館協会東北地区協会主催職員研修(広瀬、宮城野、榴岡)
- * 国際子ども図書館研修(太白)
- * 公共図書館のマネジメントクラスを対象とする指定管理者主催研修(広瀬、榴岡)
- * 指定管理者主催の児童サービス研修(広瀬、若林)
- * YAに関わる取り組み事例の共有などを目的とする指定管理者主催のYAサービス研修(広瀬)
- * 児童書への理解を深めることを目的とした指定管理者主催の児童書研究会(広瀬)
- * ブックトーク、手あそび等をテーマとする各種の外部研修(宮城野、榴岡)
- * 図書館におけるハンディキャップサービス、YAサービスに関する研修(榴岡)
- * レファレンスの実践的なスキルを向上させることを目的とした指定管理者主催研修(榴岡)
- * 全国図書館大会東京大会の資料保存分科会(若林)

【多様な利用者ニーズに対応したサービス提供のための職員のスキルアップ】

○窓口対応に求められる接遇について専門家を講師に招き、研修を実施した。

○市民図書館主催の研修について、研修レポートを全館で共有する取り組みを実施した。

○関連する各種研修に担当職員が参加し、スキルアップを図った。

(実施テーマ)

- * 接遇研修
- * 図書館における多文化サービスについて

(各館の参加状況)

- * レファレンス担当職員向け有料データベース操作研修(「ルーラル電子図書館」、全館)
- * 図書の修理・補修に関する指定管理者主催研修(広瀬・若林)
- * アンガーマネジメント、ストレスマネジメントに関する指定管理者主催研修(広瀬)
- * 全国図書館大会東京大会の障害者サービス分科会(太白)

◇◆◇方向性ごとの課題・改善策◆◆◇（案）

方向性 1 「地域や市民に役立つ図書館」についての課題・改善策

【震災関連資料等郷土資料の収集及び活用】

・「3. 11震災文庫」をはじめとした郷土資料の継続収集とともに、広報物発行や関係機関との連携イベント等を通じ、資料の利用促進を進める。

【電子情報の整備・充実、デジタル環境への対応】

・ホームページの充実、ツイッター等の SNS による情報発信、電子資料の調査、各種ネットワークへの参加等、状況に応じた取り組みの実現に向けて調整を進めていく。

方向性 2 「0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館」についての課題・改善策

【ヤングアダルト世代の読書支援の充実】

・ヤングアダルト世代にも効果が高いと考えられるツイッター等の SNS を活用した広報への取り組みを進める。
・いじめや命をテーマにした資料にするリストの更新など、中高生の心に寄り添う読書支援の取り組みを継続して進める。

【学校との連携強化による子どもの読書活動の積極推進】

・貸出用パッケージをより使いやすいものに磨きあげて、学校貸出サービスの拡充を図っていく。

方向性 3 「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」についての課題・改善策

【中田サービススポットの効果検証と図書館サービスの検討】

・平成 30 年 11 月に設置した中田サービススポットの効果検証を行い、本格実施につなげていく。
また、併せて、今後に向けた図書館サービスのあり方についても検討を行う。

【図書館サービス窓口の充実】

・図書館空白地域に図書館サービスを提供するために、老朽化の著しい移動図書館車について、車両の更新が必要である。

方向性 4 「自らの変革を進める図書館」についての課題・改善策

【市民協働による図書館づくり】

・ツイッター等の SNS を活用し、図書館の現状や今後の取り組みなどを広く発信するとともに、市民が自主的、積極的に図書館の事業に参加できる企画や環境づくりを進める。
・利用者サービスの向上として、開館時間を繰り上げる。